



新年のごあいさつ



知名町長 平安 正盛

人間(ヒト)・資源(モノ)・財源(カネ)の 三つのゲンを大切にしたい町づくり

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様をはじめ全国各地で活躍中の沖洲会並びに奄美会の皆様におかれましては、輝かしい新年をご家族お揃いでお迎えることと心からお慶び申し上げます。本年も「豊かで明るく 住みよいまちづくり」をキーワードに、福祉・教育・産業の振興のため各種施策を展開し、「子供達が夢を抱けるまち」「若者が定住できるまち」「高齢者が安心して暮らせるまち」の実現に向けて取り組んでまいります。

さて、昨年は、県内及び郡内において大きな出来事がありました。まず、宮崎県での口蹄疫発生に伴い、家畜の移動制限等が行われ、鹿児島県内の畜産農家の皆さんの経営に多大な影響を及ぼしました。また、政府が出した米軍普天間基地代替施設の鹿児島県内への移設では、徳之島が候補地として名前が上がり、徳之島三町民のみならず、郡内各首長及び議長が集結し、大規模な移設反対決起集会を開くなど、群島内を大きく揺るがしました。

さらには、皆さんご承知のように10月20日、奄美市を中心に記録的な大雨の豪雨災害が発生し、多くの方々が被災に遭いました。生活基盤を失った被災者の皆さんの早急な再建を願うものであります。

私は、就任以来、「町政は、町民が幸せな生活を演ずる(送る)ための舞台づくりである」との考えのもと、人間(ヒト)・資源(モノ)・財源(カネ)の三つのゲンを大切にしたい町づくりを推進してまいりました。現下の



地下ダムの関連工事(余多・屋者地内)

社会経済情勢は依然として厳しいものがあり、本町においても年々厳しくなる財政状況と、国際化・情報化・地方分権・更に少子高齢化という大きなうねりの中で、地方分権改革が進められると共に、地方再生に向けた様々な施策が展開され、まさに地方の真価が問われている状況下であります。これらを鑑みますと、政策力、企画力、さらには国際的視野を持った人づくり・町づくりが要求されています。この様な中、本町は過疎地域自立促進計画(平成22年度)平成27年度)及び第5次知名町総合振興計画(平成22年度)平成31年度)に基づき、国・県・関係機関との緊密な連携のもとに、総合的かつ計画的な事業実施に取り組み「みんなで創り みんなで育む みんなのまち」を基本理念に地域の自立促進を図り、町民一人ひとりがそれぞれの能力や経験を生かしながら「ずっと住み続けたい まちづくり」の実現と共に、あらゆる分野においてバランスのとれた町民が納得できる事業導入を図ってまいりたいと思います。

現在、教育環境整備として知名小学校校舎建設、農業振興整備として土地基盤整備や国営地下ダム事業、地域社会基盤整備として竿津字公民館建設を行っています。さらに、本土との情報通信格差是正を図るため、地域情報通信基盤整備(光ファイバー)を町内全域に網羅し、本年6月の開通を予定しています。この整備による光ネットワークを活用したIT関連事業が展開され、各種事業の雇用創出にも大きな期待をしております。

本年も町政の推進に、皆様のご理解とご協力をお願いいたしますとともに、新しい年が皆様一人ひとりとって実り多き年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



着々と工事が進む知名小学校